

建設業振興基金は、建設業界における電子商取引の共通基盤「CI-NET」の普及推進に取り組んでいます。
紙からデジタルへ！業界全体の業務効率化とコスト削減を支えるしくみを広げています。

CI-NETとは？

CI-NET（Construction Industry NETwork）は、建設業界における電子商取引のための標準化されたルールです。発注から請求までの各種帳票（見積書・注文書・請求書など）をインターネット経由で安全かつ効率的に交換できる仕組みで、元請・下請を問わず幅広い企業が活用しています。

2万超の企業が利用中

2025年5月末時点で、CI-NETの利用企業は20,182社。建設業界における標準インフラとして、今も拡大を続けています。



CI-NET利用イメージ

CI-NET導入前



業務の処理が煩雑
書類の回覧、印刷、発送の作業
データの転記、再入力などの手間
調達状況は書類の確認状況次第

CI-NET導入後



業務処理のスピードアップ
（合理化、省力化）
印紙貼付、郵送費、印刷代の削減
調達状況をリアルタイムに把握

CI-NET利用の特徴

1 電子署名付きの暗号化されたデータ

あんぜん



2 電子証明書により本人性の確保

あんしん



3 1つのサービスで複数企業と取引可能

かんたん

